



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第  
6号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第6巻第6号). 泌尿器科紀要 1960, 6(6): 510-510

ISSUE DATE:

1960-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111952>

RIGHT:

## 編集後記

今年は私（稲田）が教授に就任してから10周年に当るので、その記念事業を行うという考えが教室関係者の中に起こり、また泌尿器科関西地方会にても、その意味を含めた会を開きたいとの考えが、楠教授を中心として起つていた。それらの催しが5月7日に行われた。その日、第8回関西地方会が京大楽友会館にて開かれ、それが私の就任10周年を記念する会ともなつた。関西地区は勿論、遠く横浜、岡山、徳島、広島などからの参加者もあり、約100名を算した。一般演説17題、特別講演は楠隆光教授（尿石症に於ける副甲状腺機能亢進症の経験）、清水圭三教授（立位に於ける腎盂像の変化について）、加藤篤二教授（ストレスと男性性腺）の如くであつた。原田彰教授は特に「腎性血尿の診断と治療」と題して講演された。更に本会の名に於て記念品を、また中川小四郎博士から祝辞を私に賜つた。私は今日の会が極めて盛大に行われた事と、多大の厚意が私に与えられた事に対して、私は深く感謝した。次で都ホテルに於て教室主催の祝賀会が行われ、約80名の御参加を得て、盛大であつた。



本誌には原著欄の他に巻頭文と編集後記とがあるが、実はもつと柔か味を加えたいと思つてゐる。例えばグラフ頁、外国文献の紹介、読者の意見発表欄等を作つたり、巻頭文も一般会員からの自由投稿も受けるという如くである。こんな事が今日まで実現しなかつた主な原因は、やはり経済上の事情である。経済的に多少の余裕があれば、この位の増頁は容易である。本誌はもうける必要はないのであるから、会費（誌代）の納入と、論文掲載料の支払を遅れぬように守つて頂けば、それだけで多少の増頁は可能である。本誌を育ててゆくために、特にこの点をお願いする。さし当つて会員の自由な意見として、一題当たり400〜800字位の原稿を募集する。本名でも匿名でもよい。採否はお任せ願いたい（昭和35年6月）

### 購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭和30。Lazarus, A.: J. Urol., 45：527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること、希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集者が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。